

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100277		
法人名	ハートライフ株式会社		
事業所名	グループホーム ハート六条 1番館		
所在地	岐阜県岐阜市六条江東3丁目1番26号		
自己評価作成日	令和 5年 1月10日	評価結果市町村受理日	令和 5年 5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jlgvsvocd=2190100277-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和5年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で行事や計画が制約される中でも、利用者様が少しでも明るい気持ちになって頂ける工夫をしました。歩ける利用者様には、畑でスタッフと一緒に野菜の苗を入れ育て収穫を楽しみました。もう一つの畑では車椅子の方にも目で楽しんで頂ける様、足腰の丈夫な方と花壇を作り花を植えました。ホームでは出来るだけ、出来ることは自分で活動して頂く為、各自の居室の掃除を行なう日を設けました。又、コロナ禍で運動不足で体力が低下しない様に、ゲームを用いて宝探しゲームを行ない、普段歩かれない方でも生き生きとされる時間を作り楽しんで頂いています。

【(外部評価で確認した事業所の優れている点,工夫点(外部機関記入)】

事業所内には、職員が作成した折り紙細工が綺麗に飾られ、壁には利用者の共同作品や行事写真などが掲示されている。食事はリビングに隣接したキッチンで作られ、週2回の買い出しで調達したものや冷蔵庫内の食材を使用してメニューを考えるため、利用者の意見も反映されやすく、また、下ごしらえなども利用者と一緒にっており、家庭的な雰囲気を感じられる。コロナ禍で外出や交流機会が減っても、ホーム内で楽しめることを職員間で意見を出し合い、運動不足解消も兼ねたゲーム等を行ったり、敷地内の畑を活用し、いただいた花の苗を育てるなどして有意義に過ごしている。看取りについて、利用者や家族の意向に応じて対応し、協力医による定期往診に加え、24時間対応可能な訪問看護との連携もある。看取り開始時や必要時には医師から家族への説明があり、利用者・家族にとって安心感を得る事ができている。また、訪問看護師による職員への研修があり、職員にとっても心強い医療連携が図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ玄関にはいつでも確認できる様に周知しています。 長年会社が作った理念の為、皆で作り直そうとしたが、スタッフ一同、今のままで良いと意思確認する	理念は玄関や事務室などに掲示されている。職員会議では、理念に関する意見交換が行われ、改めて理念に沿った行動の重要性を認識し直すことができています。また、日々の休憩や10分程度のティータイムなどでも、理念について話し合うことで、職員の意識を高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	なかなか外出の機会が減ってきている為、地域の方との交流は少なくなっている。たまの散歩中に近隣の人と会話をする程度	運営推進会議には民生委員等の地域団体の方々が出席し、意見交換を通じて地域とのつながりを維持するための取り組みが行われている。ホームの畑に花の苗を植える際には、過去に関わりのあったボランティアの協力を得ることができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験を通じて認知症の方の理解を深めた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	なるべくコロナ禍でも運営推進会議が開催出来る時は実践し、できない時は関係機関に資料を送り課題等に対して意見を頂けた。	コロナ禍の状況に合わせて、開催を中止したり、会議を書面報告に切り替えたりする等して実施している。書面報告では、自由に意見を書き込める欄を設け、感染対策やコロナ禍での外出についての意見をいただいている。	家族との日常的なやり取りを通じて、繋がり的重要性を再認識している。今後、家族にも会議の案内を送ったり、電話連絡する等、さらなる参加を促す工夫に向けた取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ発生時に、市町村担当者に参考意見を頂いたり、物資依頼など色々協力を得ることができた。	コロナウイルスの感染拡大により、行政と緊密に連携し、感染拡大防止のためのアドバイスや食糧などの物資の提供などを受けたとのことである。また、空室になった時は、地域包括支援センターに連絡を取り、情報提供を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	退院時など転倒の恐れがある場合は、センサーマットを短期間で使用することをご家族の同意を得ている	身体拘束をしないケアについてのマニュアルがあり、内部研修を計画し、実施している。つなぎ服やセンサーマットを使用する場合は、期限を定め、家族の同意を得ている。また、会議の中で、拘束について、状況に応じ、代替的な方法を考えたりする等して、身体拘束をしないケアについて取り組んでいる。	身体拘束について振り返り、話し合う機会を会議などで設けているが、今後、さらに職員意識を高める工夫に向けた取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等で問題に上げてスタッフ同士で意見を出し合い認識し合っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護の方が増え身寄りのない方などは、いざ看取りに近づくに当たり、後見人制度を活用する様になりました		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に請求や金銭に関する事はしっかり説明して、ご家族が分からないところあは遠慮なく質問が出来る様な関係作りに努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見ポスターの設置、契約時にも説明して日頃から何かあれば、メール、電話、面会時などに状況説明している	家族との意見聴取や情報提供は面会時に加えて、電話やメール、SNSなどを活用して行っており、意見は運営に反映させている。例えば、現在のコロナ禍による面会制限における対応についての意見をいただいたため、職員間で共有し、改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを取、り話しやすい雰囲気作りを工夫している	職員会議や休憩時間、10分程度のティータイムを活用し、意見を交わしている。新規の利用者に対する対応など、些細な事でも、意見交換し、対応方法を探っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	この人手不足の中、スタッフの長所を多く見つけ、日頃の感謝を伝え処遇改善などに反映している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部研修に参加出来ない為、内部研修で確認している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ系列の事業所の管理者や同業者との意見交換をしている 現場での問題点など共有している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の面談、ご家族からの情報などでスタッフにも共有して統一ケアに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前のアセスメントで家族に寄り添い心配事など丁寧に答えている。入所してからこまめにお伝えしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所して不安を軽減する為にもご本人とご家族との接点を持ち続け頂き、ご家族協力も頂いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の片付け、掃除、行事の飾りつけ等、その人その人にあった事をして頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への電話や手紙などの機会の提供 こちらからも利用者様の様子などこまめに報告する		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状の返事を送ったり、面会制限はあるが、希望があれば距離をとり叶えている	コロナ禍の影響で、利用者の外出機会は受診の際に限られているが、友人や親戚からはがきや手紙が届くことがあり、職員も返信の手伝いをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	たまに、利用者同士のトラブルもあるが、スタッフが間に入ったり、場合によっては席替えするなど工夫している。又、おやつ作りや共同作業の場を提供している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院となり、契約終了となっても、其の後の関係機関に訪問したり、質問や悩みを聞くなど、連携している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の気持ちを傾聴して受け止める様にしている。何か1つでも解決できる事があれば、早く対応する様にしている	例えば、早起きが苦手な利用者に対しては、遅めの朝食を提供したり、咳が出るため心配と言う利用者については、往診で診察してもらえよう手配したりしている。言葉で表現できない利用者の場合には、表情や態度からニーズを察知し、支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで情報得るが、十分で無い為ご本人とコミュニケーション図りもっと詳しく本人を理解する様にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の挨拶や食事量などで観察し、特変に早く気付くように心掛けている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	運営推進会議などで課題を上げて、意見を参考にしたり、スタッフ・ご家族・医師等との情報交換に努めている	プラン更新時にはケアマネージャーから担当職員に情報を提供し、状態に変化がある場合は、随時見直しを行っている。家族から面会時や電話で意見を伺い、変更されたプランについては、申し送りにより情報共有されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必ず、申し送りを確認しながら勤務に入ってもらふ小さな事でも報告する事を徹底している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の訴えや家族の意向を聞きながら検討している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ蔓延の状況で自治会の解散。外部との交流の機会が減り難しくなってきた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のある場合は、ご家族やご本人の希望に沿って継続している。 ご家族の話し合いのもと、其の都度連絡を取って決めている	かかりつけ医の往診は月に2回ある。また、訪問看護とは24時間連携が取れるため、例えば、褥瘡の処置や誤嚥があった際等、緊急時にも迅速に対応ができています。日常的には、利用者の状態を家族に伝え、かかりつけ医の受診の際にも家族と連携を取るよう心がけている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間看護職員への緊急連絡体制は整えている。又、ドクターとの連携もすみやかに早急な対応をして頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	つぎう病院関係者との連携をとり、スタッフ全体にも共有の情報を周知していく ご家族の要望にも答え病院での洗濯物援助行なっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、ご家族やご本人に要望を確認しておくと共に、其の都度状況が変わり次第、十分納得できる対応を行なう	契約時には、家族や利用者に見取りについての指針を説明し、希望を確認している。終末期には、家族は医師から十分な説明を受け、職員は、利用者と共に過ごす時間をサポートするとともに、看取り後には葬儀に参列し、家族の心のケアにも力を注いでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練は全職員で研修で実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を夜間設定も含め、年2回実施している誰もが、通報・消化が出来る様に訓練を行なっている	年に2回の消防訓練では、昼間や夜間を想定した火災時の通報や避難手順を確認している。また、緊急連絡網を作成し、さらに、災害時に備えて、非常食や必要な器具、備品を備蓄している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの人格や性格、認知症の症状を理解し、周りとの関わりを考えその人を尊重し、今、出来る事を見つけていける様努めている	利用者が入居時に感じる不安を理解し、日頃のかかわりの中で気づいたことを情報共有することで、人格尊重の観点から、利用者の気持ちに沿った支援を行うとともに、利用者ができることは継続してもらう等、残存能力維持に努めつつ、安心した生活を過ごしてもらえるよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の判断でなく、ご本人に意志を確認し判断してもらっている 買い物の希望者には代行やご家族と外出できる様に援助している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人に合わせた起床時間や食事の好み等、出来る限り対応。買い物などの希望を聞いて実施できる様に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類の交換をご家族に代わり支援している。必要なことがあればご家族にも連絡を取っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に因んだ行事食は勿論、お正月にはおせちを作り、利用者様と一緒に準備して季節を感じて頂いている	利用者の誕生日には、食べたいメニューを聞いてリクエストに応えるようにしている。また、お正月には、おせち料理を一人用の重箱に詰める等して、季節感や見栄えにも配慮している。食事直前には、その人に合った食事形態に合わせて、ひと手間を加え、安全にも配慮して提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日記録に残し、食事や水分摂取の低下が見られたり、体調なども考慮して補食など提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回訪問歯科により必要な方は診療受けている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から個々の排泄パターンを把握し其の方にあった時間で声掛けをしている。又、トイレで失敗のある方は自尊心を傷つけない様配慮している	入居時にはオムツ使用していた利用者も、排泄チェック表を使用して定期的に声かけやトイレ誘導を行うことで、パットの交換回数が減少している。また、利用者の身体状況に合わせて布パンツやパッドを選び、支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取できる様にご本人の好みに合わせた飲み物やバナナヨーグルトを毎朝メニューに取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、ご本人が望まない時は日にちを替え実施。冬至のゆず風呂、五月の菖蒲湯、バスクリンで楽しんで頂いている	入浴専属の職員によって、週2回、入浴支援を実施し、入浴剤を使用したり、ゆずや菖蒲など季節の湯を提供している。利用者が入浴を拒む場合は、時間を変更する等して、利用者の良いタイミングで入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況を見て、臥床時間を設けたり、夜間は入居者のペースで居室に戻ってもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	排便、皮膚状態、食事摂取量、体調や行動の変化があれば訪問看護時に報告し早めの対応を心掛けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸や新聞購読等、今迄の生活や趣味が継続出来る様支援していく		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でなかなか現在は実施できず、ご家族の付き添いの受診の帰りに希望があれば、一緒に買い物などして頂く	コロナ禍で外出制限がある中においても、利用者の希望に応じて家族と買い物に出かける支援や、週2回の買い出しに同行して、希望の品物を購入する支援を行っている。日常生活では、敷地内で育てている花を見たり、天気の良い日には散歩に出かけるなどの支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	特定の方はお小遣いを毎月貰い、必要なものがあれば、スタッフが購入代行している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたい時は意向にも沿っている 字が書けない方が代筆することもある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節あった植物と一緒に育てており季節感が感じてもらっている 又、整理整頓には心掛けて清潔感を保っている	陽が差し込む居間兼食堂には、ソファがあり、折り紙や写真を見ながらくつろげる明るい空間となっている。また、台所で食事の準備をする音や香りから、生活感が感じられる共用スペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室を行き来し、リラックスした雰囲気の中で過ごして頂ける様に援助している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使われていた家具やTV等で自宅に近い居室作りに努めている	利用者自身、思いが表現できない場合には、家族に相談し、自宅で使い慣れたタンスを持ち込んだり、利用者自身が作った人形を居室に飾ったりしている。このような工夫により、利用者の生活スタイルに適した居室環境を提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除の日を設け、一緒に作業する事によって、利用者の行動力を観察しつつ、自立した生活が送れるように支援して行く。又希望を持って頂く		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100277		
法人名	ハートライフ株式会社		
事業所名	グループホーム ハート六条 2番館		
所在地	岐阜県岐阜市六条江東3丁目1番26号		
自己評価作成日	令和 5年 1月10日	評価結果市町村受理日	令和 5年 5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190100277-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和5年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で行事や計画が制約される中でも、利用者様が少しでも明るい気持ちになって頂ける工夫をしました。歩ける利用者様には、畑でスタッフと一緒に野菜の苗を入れ育て収穫を楽しみました。もう一つの畑では車椅子の方にも目で楽しんで頂ける様、足腰の丈夫な方と花壇を作り花を植えました。ホームでは出来るだけ、出来ることは自分で活動して頂く為、各自の居室の掃除を行なう日を設けました。又、コロナ禍で運動不足で体力が低下しない様に、ゲームを用いて宝探しゲームを行ない、普段歩かれない方でも生き生きとされる時間を作り楽しんで頂いています。

【(外部評価で確認した事業所の優れている点,工夫点(外部機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ玄関にはいつでも確認できる様に周知しています。 長年会社が作った理念の為、皆で作直そうとしたが、スタッフ一同、今のままで良いと意思確認する		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	なかなか外出の機会が減ってきている為、地域の方との交流は少なくなっている。たまの散歩中に近隣の人と会話をしている程度		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験を通じて認知症の方の理解を深めた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	なるべくコロナ禍でも運営推進会議が開催出来る時は実践し、できない時は関係機関に資料を送り課題等に対して意見を頂けた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ発生時に、市町村担当者に参考意見を頂いたり、物資依頼など色々協力を得ることができた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	退院時など転倒の恐れがある場合は、センサーマットを短期間で使用することをご家族の同意を得ている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等で問題に上げてスタッフ同士で意見を出し合い認識し合っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護の方が増え身寄りのない方などは、いざ看取りに近づくに当たり、後見人制度を活用する様になりました		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に請求や金銭に関する事はしっかり説明して、ご家族が分からないところあ遠慮なく質問が出来る様な関係作りに努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見ポストの設置、契約時にも説明して日頃から何かあれば、メール、電話、面会時などに状況説明している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを取、り話しやすい雰囲気作りを工夫している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	この人手不足の中、スタッフの長所を多く見つけ、日頃の感謝を伝え処遇改善などに反映している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部研修に参加出来ない為、内部研修で確認している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ系列の事業所の管理者や同業者との意見交換をしている 現場での問題点など共有している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の面談、ご家族からの情報などでスタッフにも共有して統一ケアに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前のアセスメントで家族に寄り添い心配事など丁寧に答えている。入所してからこまめにお伝えしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所して不安を軽減する為にもご本人とご家族との接点を持ち続け頂き、ご家族協力も頂いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の片付け、掃除、行事の飾りつけ等、その人その人にあった事をして頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への電話や手紙などの機会の提供 こちらからも利用者様の様子などこまめに報告する		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状の返事を送ったり、面会制限はあるが、希望があれば距離をとり叶えている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	たまに、利用者同士のトラブルもあるが、スタッフが間に入ったり、場合によっては席替えするなど工夫している。又、おやつ作りや共同作業の場を提供している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院となり、契約終了となっても、其の後の関係機関に訪問したり、質問や悩みを聞くなど、連携している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の気持ちを傾聴して受け止める様にしている。何か1つでも解決できる事があれば、早く対応する様にしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで情報得るが、十分で無い為ご本人とコミュニケーション図りもっと詳しく本人を理解する様にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の挨拶や食事量などで観察し、特変に早く気付くように心掛けている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	運営推進会議などで課題を上げて、意見を参考にしたり、スタッフ・ご家族・医師等との情報交換に努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必ず、申し送りを確認しながら勤務に入ってもらふ小さな事でも報告する事を徹底している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の訴えや家族の意向を聞きながら検討している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ蔓延の状況で自治会の解散。外部との交流の機会が減り難しくなってきた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のある場合は、ご家族やご本人の希望に沿って継続している。 ご家族の話し合いのもと、其の都度連絡を取って決めている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間看護職員への緊急連絡体制は整えている。又、ドクターとの連携もすみやかに早急な対応をして頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	つぎう病院関係者との連携をとり、スタッフ全体にも共有の情報を周知していく ご家族の要望にも答え病院での洗濯物援助行なっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、ご家族やご本人に要望を確認しておくと共に、其の都度状況が変わり次第、十分納得できる対応を行なう		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練は全職員で研修で実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を夜間設定も含め、年2回実施している誰もが、通報・消化が出来る様に訓練を行なっている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの人格や性格、認知症の症状を理解し、周りとの関わりを考えその人を尊重し、今、出来る事を見つけていける様努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の判断でなく、ご本人に意志を確認し判断してもらっている 買い物の希望者には代行やご家族と外出できる様に援助している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人に合わせた起床時間や食事の好み等、出来る限り対応。買い物などの希望を聞いて実施できる様に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類の交換をご家族に代わり支援している。必要なことがあればご家族にも連絡を取っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に因んだ行事食は勿論、お正月にはおせちを作り、利用者様と一緒に準備して季節を感じて頂いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日記録に残し、食事や水分摂取の低下が見られたり、体調なども考慮して補食など提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回訪問歯科により必要な方は診療受けている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から個々の排泄パターンを把握し其の方にあつた時間で声掛けをしている。又、トイレで失敗のある方は自尊心を傷つけない様配慮している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取できる様にご本人の好みに合わせた飲み物やバナナヨーグルトを毎朝メニューに取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	入浴日は決まっているが、ご本人が望まない時は日にちを替え実施。冬至のゆず風呂、五月の菖蒲湯、バスクリンで楽しんで頂いている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況を見て、臥床時間を設けたり、夜間は入居者のペースで居室に戻ってもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	排便、皮膚状態、食事摂取量、体調や行動の変化があれば訪問看護時に報告し早めの対応を心掛けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸や新聞購読等、今迄の生活や趣味が継続出来る様支援していく		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でなかなか現在は実施できず、ご家族の付き添いの受診の帰りに希望があれば、一緒に買い物などして頂く		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	特定の方はお小遣いを毎月貰い、必要なものがあれば、スタッフが購入代行している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたい時は意向にも沿っている 字が書けない方が代筆することもある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節あった植物を一緒に育てており季節感が感じてもらっている 又、整理整頓には心掛けて清潔感を保っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室を行き来し、リラックスした雰囲気の中で過ごして頂ける様に援助している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使われていた家具やTV等で自宅に近い居室作りに努めている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除の日を設け、一緒に作業する事によって、利用者の行動力を観察しつつ、自立した生活が送れるように支援して行く。又希望を持って頂く		